



株式会社 ReFruits キウイの国農場にて
左：株式会社 ReFruits 取締役 阿部翔太郎さん
右：株式会社 ReFruits 代表取締役 原口拓也さん

●トピックス●

大熊町に訪れたことで、記者志望から農家へ

大熊町は震災前からキウイの栽培が多く行われていました。横浜で生まれ育った若者がなぜ大熊町に住み、畑で再びキウイを作り始めるようになったのか株式会社 ReFruits の阿部さんに取材しました。

JESCO 阿部さんが大熊町を知ったきっかけは何でしょうか？

阿部 高校生ぐらいの時から記者になるのが夢で、大学で国際・社会問題の知識を深め、啓発するサークル活動をしていました。その中で、福島の問題に興味を持って大熊町の取材をすることになりました。

JESCO 初めて大熊町を訪れた時はどう思われましたか？

阿部 2021年の夏に大熊町を初めて訪れた時、ゲートの向こうに震災当時の街並みが残ったまま、いまだ入れない場所があることを目の当たりにして衝撃を受けました。

また、私と同年代の大熊町出身の方と話をする機会もあり、震災当時小学生の年頃に、突然の地震で校庭から逃げるように避難して、友達にも会えない生活が続いたことや、避難生活の中でも、ゲームをしたり好きなアーティストの音楽を聴いたりといった、私自身の暮らしにも重なる場面があつたことをお聞きしました。そうしたお話は私にとって先の震災を自分ごととして捉え返す契機となりました。そして、横浜にいる私と被災者という関係ではなく、もっと近い距離でこの町の社会問題に取り組みたいと感じるようになりました。

JESCO 記者を志望していた阿部さんが大熊町でキウイ栽培を始めたのはどのようなきっかけですか？

阿部 大熊町への訪問など、大学でサークル活動を続けていく中で、伝えたいことと、活動を通して実際に他者に伝わることのギャップにもどかしさを感じるようになり、大学を休学して記者とは違うアプローチを模索しました。地域のことを伝え、社会を変えたいという気持ちを変わらずに持つており、大熊町で何かできることはないか色々考えていく中でキウイを始めました。大勢の人に興味を持ってもらう入り口として、面白さや楽しさ、美味しさなどが重要だと感じています。だから大熊町の畑で美味しいものを作る農業に着目したのです。私は農学部で勉強してきたわけではないので、そこは仲間と役割分担をしていて私は販売・宣伝などを担当しています。全国に大熊町の美味しいキウイを広めることで、多くの人に興味を持ってもらいつつ、この地域のことを伝え、社会を変えていきたいと考えています。

JESCO 今後の目標と思い描く地域の未来を教えてください

阿部 まずは美味しいキウイを作ることが目標です。大熊町に美味しいフルーツがあると認識してもらうことが最初のゴールです。

そして、この地域で、ゼロから、若者でも農業ができる、そのノウハウは他の地域でも農業振興や地域づくりに生かすことができると思います。被災地ではなく、日本中の課題解決のモデルになる地域を目指したいです。

● 首相官邸・霞が関の中央官庁で「復興再生利用」を開始

東京電力福島第一原子力発電所の事故に伴う除染作業で発生した除去土壌を復興再生土として利用する取組が進んでいます。本年7月には、首相官邸の前庭で復興再生利用のための工事が実施され、続いて9月から10月にかけて霞が関の中央官庁にある9か所の花壇等で実施されました。使用された復興再生土は合せて約68m³。飛散・流出防止のため、厚さ約20cmの覆土も行われています。施工後は継続して空間線量率のモニタリングが実施されており、安全性が確認されています。

除去土壌等は、福島県内の中間貯蔵施設に約1400万m³保管されています。そのうちの約4分の3は利用が可能であり、貴重な資源として盛土の基礎や造成など公共事業等で利用（復興再生利用）が可能です。法律では2045年3月までに除去土壌等の福島県外最終処分が定められておりますが、復興再生利用を進めることで、最終処分する量を減らすことができます。

また、国が8月26日に公表した「福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた復興再生利用等の推進に関するロードマップ」では、復興再生利用の推進に関して、首相官邸、中央官庁で得られた知見を活用し、霞が関の中央官庁以



霞が関の中央官庁で施工された花壇等

外にある各府省庁の庁舎等で事例を創出、さらには公共事業、公的主体が管理する施設、継続的かつ安定的に事業が実施できる民間企業が行う土地造成・盛土・埋立て等への利用などの先行事例を創出することで、県外最終処分の実現に向けての実用途における復興再生利用の目途を立てることとされています。より詳しい情報は、環境省の中間貯蔵施設情報サイトをご覧ください。



環境省 中間貯蔵施設情報サイト

● 第12回 知のネットワーク会合を開催します！

減容化・再生利用と復興を考える知のネットワーク会合を「復興再生利用・最終処分に向けた産官学をつなぐ技術ネットワークの構築」というテーマで開催いたします。なお、本会合は環境放射能除染学会第22回講演会としても位置付け

日時 2026年1月22日（木）14:00～16:45

会場 日比谷図書文化館地下1階日比谷コンベンションホール

テーマ 「復興再生利用・最終処分に向けた産官学をつなぐ技術ネットワークの構築」略目標から次のステップへ」

られています。

オンライン・オフラインのハイブリット形式で以下の通り開催いたします。どなたでも無料で聴講頂けます。ぜひご覧ください。

★オンライン（Webex）聴講申込み

メールの件名を『1月22日会合申込』とし、氏名、勤務先名称・所属部署（法人の方）、メールアドレスをご記入のうえ、下記にお送りください。前日までに視聴用URLをお送りします。

i-network@jesconet.co.jp

情報センターだより

▼見学者アンケート

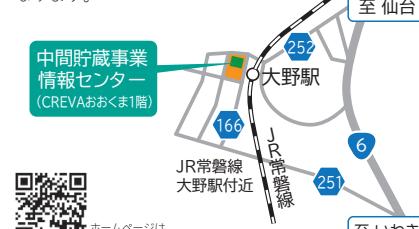
● 実際に福島のこの場に足を運んでもらって体感してもらうのが一番深く、早く理解が進むと思います。分かりやすく体験ベースで偏りなく捉えられたからです。／10代 東京都

●「安全」だということは頭では理解できた。しかしながら心が追いついてこない。首相官邸で利用がされたという話を聞いたように、実際に使用して大丈夫という実績を積み上げるしかないのだろうと思った。／20代 千葉県

● 道路への利用はとても良いと思いました。土壤の放射線量を明示し、安全性を説明し続けていくことが大切だと思います。／40代 兵庫県

▼情報センター見学のご案内

中間貯蔵事業情報センターは無料で見学できます。中間貯蔵施設見学は事前に予約が必要となります。



福島県双葉郡大熊町大字下野上字大野116番5
開館時間▶ 9:00～17:00（最終入館16:30）
休館日▶ 毎週火曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始（12/29～1/3）

編集後記



・中間貯蔵施設内で作業中に見かけました。
冬枯れの景色に、黄色い花がそっと彩りを添えていました。

レターに対するご感想やご意見、ご要望を下記メールまでお寄せください。
johocenter@jesconet.co.jp



発行:中間貯蔵・環境安全事業株会社
知のネットワーク運営チーム